

桜工

日本大学工科校友会

No. 66 1984

目次

《特集 変貌するキャンパス周辺（その1）》

駿河台キャンパスのうつりかわり	2
駿河台キャンパスの今昔	4
半世紀前の駿河台思い出抄	5
思い出	6
部会だより	7
土木	7
建築・機械	8
電気	9
工化	10
薬学・物理	11
数学・交通	12
精密・海建	13
航宇	14
電子	15
地方支部だより	15
北海道・宮城県	15
山形県	16
群馬県・茨城県	17
埼玉県・大阪府	18
愛媛県・長崎県	19
沖縄県	20
職域支部だより	21
桜都会・東京都建設桜工会	21
千葉県庁支部	22
本会関係記事	22
事務局	22
正会員終身会費58年度納入者	22
地方支部職域支部一覧表	24



増階前の旧2号館

新装成った2号館全景

駿河台キャンパスのうつりかわり

理工学部次長 建築学科教授 木下 茂徳
(昭和22年工学部建築学科卒・工博)

私が当時の世田谷予科理科に入ったのが昭和17年4月で、戦時特例の6ヶ月短縮で予科生活も2年半で打ち切れ、私達の学年の動員先であった追浜の海軍航空技術廠（現日産自動車追浜工場）での勤労働員を昭和19年9月に解除され駿河台の工学部（現理工学部）に進学したのは19年10月1日からでした。戦争が日増に激しくなるにつれ、飲食店はほとんどなくなり、わずか外食券食堂が開かれている程度で、休憩時間内には、神保町から九段にかけて立並ぶ古本屋街に出かけ、新刊書ではほとんど手に入らなくなった専門書を見つけてくるのが日課でした。友人達が教室でどこの本屋のどの棚のところに小野薫先生訳の「骨組の力学」があったとか、どこの本屋に笠原敏郎先生の岩波全書の「建築法規」の古本が一冊出ているとかの情報を交換して乏しきなかにも、いよいよ専門課程に入ったんだという希望と学問に対する情熱と激しい戦争の中でも理工系なるが故に兵役の徴集延期の特典を与えられ勉強できる喜びと責任を感じていました。食料事情も日一日と逼迫を加え食料不足にたえかねてさつまいもを買出しに行った学生が、買出しに行った出先で、先生とばったり会ったなど、当時の先生方も学生も歯をくいしばって努力していた事が思い出されます。昭和19年末頃から、サイパン島が米軍の手にわたりB29が昼間数機で飛来するようになり、学友の自宅近くや下宿付近にも爆弾が落下し、高々度の空を飛ぶB29に日本の戦闘機が体当たりする瞬間も駿河台からもしばしば望見し、塔乗員のパラシュートが開くように手に汗をにぎって祈り合ったものです。昭和19年11月頃となり、我々の学校の野外教練が4泊5日富士の麓の滝が原演習場で行われることになり、東京出発の列車が早朝なので駿河台の校舎周辺の友人の下宿先等に仮分宿していたら夜中に警戒警報から空襲警報になり、B29による初めての東京夜間空襲となり神保町、小川町方面にも焼夷弾がふりそそぎ、友人ともども現在の1号館（本館）の地下に避難したところ、附近の人々も皆鉄兜や、防空頭巾を身につけて避難してきて、すしずめになり、ズドン、ズドンという爆弾や高射砲の炸裂音を聞きつつ地下の廊下で朝まで過しました。

その当時の工学部の建物は、現在の1号館と、山の上ホテルの前の工業化学科の建物それに研究所といていたニコライ堂の下の3号館と現在の主婦の

友会館の所にあった木造附属建物だけでした。私達建築学科の設計製図の部屋は3号館の4階にあり、建築の先生方の研究室も同じ階にありました。東側と北側の窓をあければ、ニコライ堂の建物が目前にあらわれ、今の7号館の処には、ニコライ堂の南面に通ずる石段があり、その両側にニコライ堂関係者の平家建住宅が建っていました。

現在の理工学部1号館（本館）の道一つへだてた前は、現在取り壊されたが中央大学の講堂が建っており、その東側には鉄筋3階建位の東京都立駿河図書館がありました。

1号館の斜めさし向いは中央大学の古い鉄筋コンクリートの建物がL型に建ち、南側の道路をへだてて南側は、馬事会館の建物、その西側、即ち現在の



取り壊された中央大学講堂

主婦の友会館の敷地に書庫に使用していた土蔵があり、その隣りに文房具や製図用品を売っていた売店、その南側に木造2階建の建物があり、たしか1階が学生の実験関係の部屋、2階に絵画部のアトリエ等がありました。

比較的広い校庭を持っていた当時の世田谷校舎から、駿河台校舎に進学した私達は、教練をどこで行うのかと想像していたら、その売店前の狭い空地や、道路の舗道を利用して各個教練をしたり、まとまった教練は、上野公園や代々木練兵場などへよく出かけて行って訓練を行ったものでした。


現在、中央大学会館の建っている角地は、当時まだ空地で、その北側の現在の歯科の進学過程の校舎のある所が、歯科の病院で、その東側のところに飯田さん(高島屋の社長が専務)の邸宅がありました。この建物が戦後日大の資産になってからは、4号館が出

◎日本大学工科校友会誌委員

委員長 池村 糺 (工化)
副委員長 市川 次良 (工化)
副委員長 藤田 幹 (建築)
委員 羽島 博 (土木)
委員 鈴木 秀男 (機械)
委員 関根 好文 (電気)

委員 木村 吉己 (土木)
委員 岡村 信 (薬学)
委員 野木 靖之 (物理)
委員 川岸 正樹 (数学)
委員 木幡 正敏 (精密)
委員 安達 洋 (海建)

委員 小西 和夫 (交通)
委員 大西 一功 (電子)
委員 藤原 充男 (薬学)
委員 川島 孝幸 (航宇)

編集後記 

本号には目下、激しい勢いで変貌しつつある駿河台校舎周辺の現状を伝え乍ら、戦前からの学生々活の変化を顧みて、何時も変らぬ若きエンジニアの心意気を探りたいと考え、小特集を組みました。直ぐ見付きりそうな写真でも仲々入手出来ず、過去を知る難しさも味いました。次号にも続けたいと思いますので校友諸兄には“乞御協力”

昭和59年3月25日発行

発行所 日本大学工科校友会

編集・発行者 池村 糺

東京都千代田区神田駿河台1-8

電話 03-293-3251 内線 206

振替 東京 3-162710

印刷所 有限会社 ムサシノ 総合印刷